

別記様式第7号

公益信託ぎふNPOはつらつファンド
実績報告書(事業助成用)

平成18年4月10日

公益信託ぎふNPOはつらつファンド受託者
三菱UFJ信託銀行株式会社 へ

住所:〒501-6113

法人(団体)名: 印

特定非営利活動法人
アビフィールド岐阜協会

代表者名:

理事長 尾畑 敬子

公益信託ぎふNPOはつらつファンドから平成17年度(後期)の事業助成を受けた事業が完了しましたので、下記のとおり関係書類を添えて報告します。

記

1. 事業名

アビフィールドハウス「なかよし村」PR事業

2. 助成の種類 該当するものに を付けてください。

法人設立準備助成	立ち上げ時事業助成	展開期事業助成	人材育成事業助成
----------	-----------	---------	----------

3. 助成金額

既交付金額	934千円
実績額	934千円
差し引き額	0千円

4. 事業実施期間

平成17年10月1日 ~ 平成18年3月31日(年 6か月間)

5. 実施した事業の実績・成果

(1) 具体的な活動状況（実施日時、場所(住所)、対象者、参加者等）

アビィフィールドハウスなかよし村パンフレット作成

パンフレットを作成することによって、高齢者のグループリビングのあり方を周知するため、パンフレットを作成した。

本編 2000部（カラー A4版 20ページ コート紙86.5k）

資料編 1000部（モノクロA4版 16ページ コート紙86.5K）

（配布）

開村式200部（200） 内覧会400部（300）

説明会 50部（50） 近隣公共施設50部 岐阜市30部

病院関係30部 喫茶、パーマ50部 福祉施設30部

マスコミ30部（30）視察者50部（30）

日本協会200部（100） 国際協会100部（30）

来訪者用100部（40） ラウンジ50部（20）

在庫740部（200） *（ ）は、資料編の部数

チラシの作成

チラシを作成して、なかよし村を広く周知した。

10,000枚（カラーA4版 両面刷り コート紙38.8K）

（配布）

周辺世帯200枚 市施設500枚 病院関係500枚

福祉施設500枚 イベント配布500枚 開村式400枚

内覧会800枚 喫茶、パーマ300枚 マスコミ100枚

視察者500枚 日本協会1000枚 国際協会500枚

来訪者用1000枚 ラウンジ200枚 在庫 3000枚

なかよし村開村式

なかよし村開村式が

時期 平成18年3月24日 13:30～

場所 なかよし村

主催 NPO法人 アビィフィールド岐阜協会

後援 ふるさと福祉村やないづ

参加者 約150人

内容

式典 13:30 開会宣言

（屋外） 13:32 なかよし村経過説明

13:40 来賓挨拶（アビィフィールド国際協会代表笠原県議会議員、岐阜地方振興局、前柳津町長）

14:00 音楽（津軽三味線）徳山弦泉

14:20 来賓挨拶（カナダ領事、アビィフィールド日本協会理事長、岐阜市長、岐阜市議会議員）

14:40 音楽（キーボード、ソプラノ独唱、バイオリン）

15:00 来賓紹介、祝電披露

15:05 ソプラノ独唱、祝杯、懇談

15:15 なかよし村内覧（津軽三味線とバイオリン）

が、建物の中を演奏しながら巡回)

講演会 (15:30~16:00)

(カルチャールーム) 「老後の住まいについて」

講師 渥美 正子 (愛知淑徳大学教授)

討論会 (16:00~16:30)

(リビングルーム)

テーマ「みんなで育てよう なかよし村」

参加者 アビィフィールド国際協会代表、アビィフィールド岐阜協会理事長、設計事務所代表、老人クラブ連合会長、カルチャー教室講師、ふるさと福祉村やないづボランティア、地元高齢者代表、入居希望者

内覧会

なかよし村に関心のある方々に自由に見ていただくため、内覧会を開催した。県内外から大勢の方々がお見えになった。遠くは、横浜、金沢、長野、静岡からもお出でになった。特に、愛知県、三重県からの方が意外に多く、関心の高さが伺えた。

日時 平成18年3月24日(金) 15:30~17:00

3月25日(土) 10:00~17:00

来訪者 24日 150人 25日 250人

説明会

なかよし村に入居を希望される方へ、日本初のアビィフィールドハウスでの住まい方についての詳細な説明会を行った。

日時 平成18年4月2日(日) 13:00~

参加者 約50人

(2) 活動の成果 (開催行事等の参加規模、目的の達成度、効果等)

アビィフィールドハウスなかよし村パンフレット作成及びチラシの作成

長年、研究を重ねてきた結果をパンフレットやハンドブックにすることによって、アビィフィールドハウスを理解してもらおうとしたのであるが、ホームページや新聞での紹介とあいまって、各方面からの資料送付の依頼が多かった。特に、県外からの要望が多く、東京の日本協会にも多くの資料を送ることとなった。

なかよし村開村式

なかよし村開村式には、金曜日という平日にもかかわらず、150名の出席者で大盛況となった。イギリスの本部代表、カナダ領事、岐阜市長を始めそうそうたる方々が駆けつけてくださり感激の開会式となった。マスコミの対応も破格で、テレビ局が3社、新聞が2社が取材に訪れた。テレビのニュースや翌日の新聞掲載がパンフレットやチラシとは別の大きな力となって、なかよし村とアビィフィールド協会を多くの人に知っていただくきっかけとなった。

コンサートを挟んだ式典は、参加者の全員を感動させ、なかよし村のステータスを高めることとなった。また、講演会と座談会も内覧会に訪れた方々が、足を止めてなかよし村の理解を深めた。

内覧会

2日間にわたる内覧会は、約400名の来訪者でにぎわった。初日は、入場制限をするほどの盛況であった。2日目は、土曜日と言うこともあって、250名を超える来訪者であった。

説明会

4月2日の説明会は、土砂降りの雨の中、50名の参加者を数えた。入居を希望する人を対象とした説明会であるので、皆が熱心に聴き入った。静岡、名古屋、四日市からの入居希望者も訪れた。

10名の入居定員に対して多くの人が集まり、いかにこの事業が現代の高齢者のニーズに答えているかがひしひしと感じられた。

(3) 今後の課題

数十人の希望者の中から、たった10名の入居者を選考するという作業が4月以降に始まりましたが、いかに公平に公明正大に選考を行うか、また、その後の2ヶ月間の仮入居期間においていかに的確に共同生活適合者を選考するかが課題となります。

また、このハウスが日本で第1号のアビフィールドハウスであることから、多くの人注目している。このハウスの運営が成功することが、後に続くハウスの力となるのです。まだ、よちよち歩きのハウスではありますが、入居者、ハウスマザー、地域の住民それにNPOがそれぞれに協力して、新しい高齢者の一つの生き方の選択肢を提供していくことが、なかよし村の大きな役割であります。

この4本の柱のどれが欠けても、なかよし村は、うまく行きません。4本の柱をいかに緊密な関係に保かが、究極的な大きな課題であると考えます。